

キャラクター名 ヴィル・テイルド	プレイヤー名
---------------------	--------

種族	ウィークリング	種族特徴	弱点(水氷+3)、石化の視線、毒の血液		
生まれ	魔術師	性別	男	年齢	16歳
冒険者Lv	7	経歴	人肉が食べられない		
経験点	500		数が多いほうの味方をしてきた 人族に懐柔された		

		能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能		Lv.	技能	Lv.
技	7	器用度	8	1		16	2	ソーサラー	5			
		敏捷度	6	1		14	2	レンジャー	2			
体	8	筋力	4	2		14	2	バード	1			
		生命力	12	2		22	3	アルケミスト	1			
心	8	知力	6	7	3	24	4	ライダー	7			
		精神力	9	2		19	3					

戦闘特技		能力値	備考
ターゲットィング	1-280p	p	
武器習熟A/スタッフ	1-281p	p	
魔法拡大/数	1-289p	p	
バイオレントキャスト	1-288p	p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	
		p	

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
汎用蛮族語	○	○
魔動機文明語	○	○
魔法文明語	○	○
ブルライト語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術	
レジスタンス	
遠隔指示	
騎獣強化	
HP強化	
チャージ	
HP超強化	
特殊能力解放	
獅子奮迅	
バークメイロ	

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾	必要			
	ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	ソフトレザー	7		3
盾				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				
回避技能	合計値			0 3

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マナスタッフ 魔力+1、魔法の武器である	2H	3	1	2d+ 1	12	1	13										
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	14 m	42 m

回避	防護点
2d+ 0	3

HP
43

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
真語魔法	5	10			

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 11/×	2d+ 0

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 10	2d+ 10

MP
36

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首	
背中	ロングマント フード付き
右手	
腰	アルケミーキット
足	
その他	

装備品	説明
左手	

その他メモ	自動失敗 チェック
ヴィル・テイルドはウィークリングとして生まれ落ちた、いわゆるもやし野郎だった。しかし、享楽主義なバジリスクが親だったのが幸いしてか、運よく生き残ることができた。そもそも、ヴィルの親であるバジリスクが気分屋であり、他種族ともあまり関わろうとしなかったため、身内以外とかかわる機会がなかった。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ⑤
幼少期のころ、親に人肉を食わされたことがあるが普通にますかったので食べられなくなった。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ⑩
そしてある日、親は「面白そうな遺跡があるからちょっくらいってくる」といって住処をでていった。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ⑮
親は死んだ。帰らなかったのだ。なぜ死んだのか、それが冒険者によるものなのか、はたまた蛮族たちによって殺されたのかは不明である。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ⑳
ヴィルは途方にくれた。そして、彷徨っていたところに2人の冒険者と出会った。幸いにも彼らは話が分かる奴らで、ヴィルを殺さないでくれた。	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ㉕
「お前、人族の街で冒険者やらないか？」	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ㉖
相手は二人である。導き出される答えは一つ。ヴィルは数が多いほうの味方をした。もともと人族に近い思考を持っていたため、そして人族	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> ㉗

